

8部

2017年9月卒業者
アンケートより

2017年9月に本学通信教育部を卒業された方を対象にアンケート調査を実施しました。今後の皆さんの学習の励みにしていただけたらと思います。

【卒業者の概要】

2017年9月の卒業者は、63名。学科ごとの内訳は、社会福祉学科55名、福祉心理学科8名となっています。入学月は4月入学が7名、10月入学が56名であり、入学コースは1年次編入が12名、2年次編入が2名、3年次編入が49名でした。

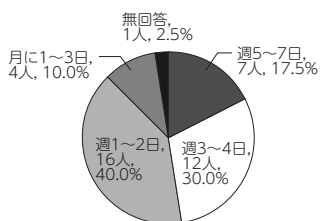
【アンケートの概要】

今回の卒業者アンケートは卒業者63名中40名から回答をいただき回収率は63.5%となりました。Web（TFUオンデマンド）での回答は13名、書面での回答は27名でした。

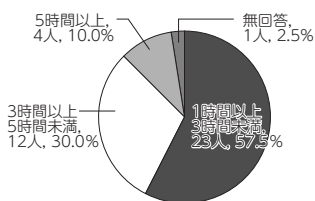
1 【学習全般について】

学習頻度や1日の学習時間、1単位分のレポート作成にかかる時間などは、下記のとおりでした。

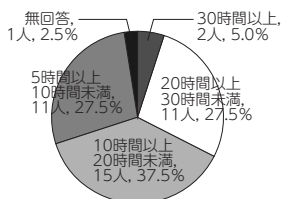
■ 学習頻度



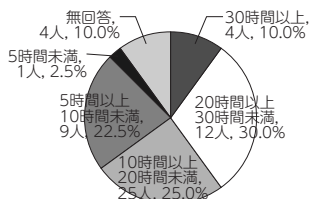
■ 1日の学習時間



■ 1単位分のレポート作成にかかる時間

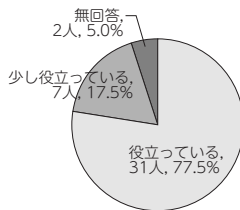


■ 1科目の科目修了試験準備に要する時間

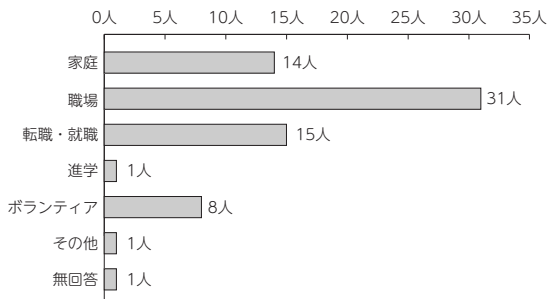


2【本学通信教育部での学習の成果について】

■通信教育部での学習は、職場や家庭などで役立っていますか



■通信教育部で学んだ内容や得た資格をどこで役立てていますか。または、今後どこで役立てていきたいですか（※複数回答可能）



■通信教育部での学習は、職場や家庭などで役立っていますか。また、今後どのように役立てていきたいですか、理由を具体的にご記入ください。

～現在の職場や、地域で～

- ・現在の勤務先は障害者福祉に関係しているため、学んだ知識を活用して支援できればと思います。
- ・今のところ、職場（障がい者自立支援施設）とボランティア先（特養）で広く浅く役に立っています。
- ・現在の勤務先（障害者生活介護施設）において利用者の支援を行うにあたり、学んだ知識がとても役に立っている。また、子育てにおいても学んだことを生かして子どもと接することができている。
- ・知識と経験を職場・現場で活用している。施設管理者より事務兼務の辞令もあり、今後は社会福祉士の資格取得も期待されている。
- ・現在勤務している職場へ就職する際に役立った。また業務内容においても、専門職としての見方に役立っている。

- ・地域における多様な社会問題に目を向け、地域福祉に貢献できる人材を目指していききたいと思います。

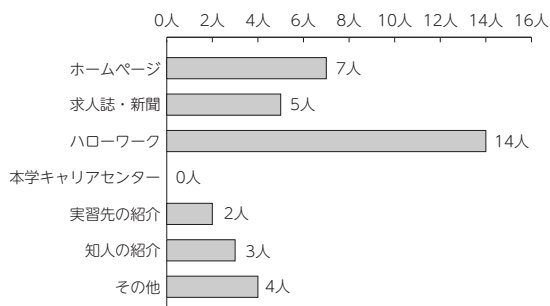
～日常生活で～

- ・福祉についての知識は、普段の日常生活で役立っております。例えば、買い物をするときでも「このお店はバリアフリーに配慮している」など視点が変わりました。今の仕事でもお客様と関わる時にどのようなニーズを抱えて、困っているのかなど考えて仕事に取り組むようになりました。今後は社会福祉士の資格を取得することを目標にしながら、福祉の分野で転職をしようと考えています。
- ・障害者や高齢者の抱えている不安や問題を理解できるようになり、両親や近所の高齢者との接し方に役に立っている。

～自身の見方・成長につながっている～

- ・現在、仕事は福祉関係ではありませんが、さまざまな場面で対人援助のスキルを活用する機会が増えてきている。また、大学で学んだことを周囲へ発信し、今後の活動における人脈を広げたり、精神疾患で悩んでいる友人等のサポートをすることができるようになっている。
- ・相談援助を行う時、自分ができること、できないこと、だれに、どこにつなげるのかを考えるとき学んだことを生かしたいと思います。
- ・心理学を学んだのは、もともと自分が不思議だったから。学んだことにより自らのなぞを理解する糸口になったりしており、少し自分に対して自信を持てるようになっている。
- ・「福祉の視点」を様々な角度から学び、人の尊厳を守ることやそれぞれの価値観を尊重することなどを高く意識できるようになりました。

■**転職・就職活動を行った（行う予定の）方**にお聞きします。転職・就職先の情報はどのような方法で得ましたか。または得る予定ですか。（※複数回答可能）

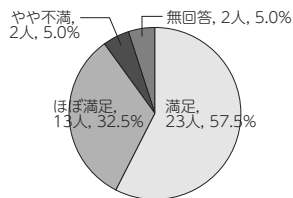


■転職・就職等にあって取り組まれたことを具体的にご記入ください

- ・今年度いっぱい、小学校の特別教育支援員としてアルバイトをします（この職の募集は新聞に掲載されていたので応募し、履歴書と面接の上、10月から3月までの臨時職員としての採用）。2月の試験に向けて、勉強を続け、国家試験を受験します。来年度については、大学で得た資格が活用できる仕事に就きたいと考えています。目標は、スクールソーシャルワーカーです。
- ・実習先で、採用試験を受けるようお願いをいただきました。2月の国家試験を受け、まず合格したいと思います。
- ・前職はIT企業でマネジメント関連業務に従事していました。実習のために1カ月間の休みが必要だったことや、元々卒業したら福祉の業界で働きたいと思っていたこともあり、5月末に会社を退職しました。6月中旬から7月中旬まで実習に従事した後、7月下旬にハローワークに行き求職者手続きを行いました。その後、待機期間を経て8月上旬から就職活動を開始し、8月下旬に障がい者自立支援施設（自立訓練（生活訓練））に就職が決まりました。
- ・まずは国家試験合格がすべてなので、試験勉強に集中している。来春採用の施設や企業があれば採用試験の受験を考えている。

3【通信教育部での学習について等の全体的な感想】

■あなたは本学通信教育部で学んで満足できましたか



■本学で学んだご感想や通信教育部に対するご意見・ご要望、在学生へのメッセージ

【学びを通じての成長をお寄せいただいた声】

- ・スクーリングが充実しており、レポート作成と併せて学ぶことで理解が深まりました。技術だけではなく倫理的な部分も学ぶことができ、今後現場で迷いが生じたときに立ち返る原点になると思います。ありがとうございました。
- ・最初は「通信課程」というものに、あまり大学生活を期待していなかった。通信教育企業等の通信講座くらいのものだらうと思っていたが、卒業する今

では、大学で学んだという実感がある。考察力、レポートを書く文章力、プレゼン能力、コミュニケーション力等を身につけることができたと思っている。東北福祉大学に入学して良かったと思う。

【目標を見失わずに学友とともに努力しよう】

- ・スクーリングでは、若い人から年配の方がいて、多様な職種につかわれている方や専門的な分野で仕事をされている方などと一緒に勉強することができ、さまざまな解釈や考え方に触れることができ、学習面以外でも、よい体験ができたと感じました。
- ・卒業が遠いことのように感じていました。レポートの結果にがっかりしたり、先生の言葉にはげまされたり、あつという間でした。グループワークでの授業や、休み時間に学生同士で話し合ったことは忘れられません。先生、学生のみなさん、ありがとうございました。私は福祉についてほとんど何も知識がなかったため、本学で学び、福祉全体について様々な観点から体系的な知識を得る機会が持てたことは大変良かったと思っています。
- ・もう少し真剣に学習にとりくむべきだったと反省しています。しかし、同じ通信で学ぶ学生同士、良い友人を得たことはうれしいことでした。スクールソーシャルワーカーの勉強がしたいので、そのような科目があれば受けてみたいと思います。

【人生のなかでの大学卒業ということ】

- ・仕事との両立は大変なものであるが、やり遂げることで自分自身の大きな自信へとつながっていくと確信した。入学して本当によかったと思う。また決してあきらめず、自分を信じて卒業まで頑張ることで必ず道は開けると思う。学問は決して人を裏切らない。
- ・努力も苦労も無く成果も飛躍もあり得ません。どうぞ大いに努力し苦労してください。費やした時間は決して無駄にはなりません。疲れたときは少し休んでも良いと思います。無理をせず継続することが重要であると考えます。卒業生としてどこかでご縁があることを期待しております。

紙数の関係で、すべては掲載できませんでした。より詳しい結果は、通信教育部ホームページ「学生・卒業生の声」から閲覧可能です。是非、ご覧ください。

アンケートにご回答いただいた9月卒業生の方に、厚く御礼申し上げますとともに、今後のご健康とご活躍を願っております。

スクーリング・アンケートより(3)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●生涯発達心理学 中村 修

- ・人の心身の成り立ちや経過について順を追って学び、確認できたことで、その年齢にある人たちの行動や心のあり方がよく分かり、周りの人や家族などと照らし合わせて「人間は面白い」と感じる授業でした。

●心理学実験Ⅰ 佐藤 俊人

- ・難しい内容を身近な例にたとえて、わかり易く説明していただいたことで、理解しやすく取り組むことができました。また、周りの学生とも関わることによって親近感が湧き楽しく学ぶことができました。

●産業心理学 山口 奈緒美

- ・職場でのストレス、生産性と管理、職場集団の問題など納得させられ感心することが多かったです。若いときに学んでいれば、まったく違う自分がいたかもしれません。

●カウンセリングⅡ 中村 恵子

- ・先生の講義は歴史的背景や、それぞれの心理学を生んだ人の境遇や思いまでを丁寧に説明してくださり、イメージしやすく理解が深まった。認知行動療法の事例に関する講義では、知識や技術も大切であるが、正しいと思われる認知を示すことができるだけのカウンセラー自身の資質を高める努力がとても必要になると思った。
- ・種々のカウンセリング技法がわかりました。ミラー リフレーミング ポジティブフィードバックでクライアントの精神状態をやわらげることが出来ることや、リプレイメントの必要性、自己一致の難しさなど。学んだことの実体験を重ねていくことが必要だと感じました。

●特講・福祉心理学8(ストレスとつきあう心理学) 菊住 彰

- ・ストレスとは悪いものであり、なくすことばかりを考えていました。しかし、ストレス=悪ではないことや、ストレスを減らしながらうまくつき合っていくという方法があることがわかり、大変勉強になりました。
- ・ワークを通して実際使えそうなことを教えていただいた。自分のセルフケアをし、ストレスをためないようにしようと思った。また、肩こりがひどく、肩こり解消法のワークをさっそく昨日ホテルで行い、中指の先から砂の感覚を2山作ることができました！！